

## 平成18年度島根県公立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要について

## 【全般】

問題作成にあたっては、中学校学習指導要領に沿い、中学校で学習した基礎的・基本的事項を中心に内容を精選して日頃の学習で積み上げられた基礎学力が検査できるように、また、単に知識量を問うのみでない問題作成に配慮した。

学力検査の平均点と得点分布状況は別紙のとおりである。5教科の平均点は289.2点で前年度と比べ5.7点下がっている。また、各教科の平均点については、数学の平均点が54.4点（昨年度49.7点）と昨年度に比して4.7点上昇した点と、理科の平均点が57.8点（昨年度62.1点）と昨年度に比して4.3点低下した点、英語の平均点が56.6点（昨年度60.7点）と昨年度に比して4.1点低下した点が目立った。また、本年度、英語の問題（第2問題の問1）に誤りがあり全員を正答扱いとする対応を行った。しかし、近年の平均点や得点分布と比較したとき、所期の目的はほぼ達成したといえる。

## 【国語】

文章を読んで大筋を理解する力や、話の内容や展開を正しく聞き取る力については、中学校における学習の成果で概ね定着している。また、自分の考えを文章に表そうとする意欲もうかがえる。しかし、論理的な文章を的確に読み取り、設問の条件にしたがってまとめる力や、表現に即して深く味わう力については個人差がみられた。正確な表記、書き言葉と話し言葉の区別、といった基本をしっかりと身に付け、より適切に表現する能力を高める学習が望まれる。

## 【社会】

抽出の結果、全問題の正答率が58%、全問題の3分の1弱に当たる12問が正答率70%を超えているなど、地理的分野を中心に、中学校での基礎的・基本的な学習内容については概ね理解されており、学力は定着している。また、歴史的な事象を関連づけて考える問題や、資料をもとに記述する問題等において理解に差が見られたものの、図やグラフ、資料、写真等から判断したり読み取る力は概ね身につけており、中学校での学習の成果がうかがえる結果であった。

## 【数学】

数の計算や方程式を解くこと、基本的な技能及び知識は概ね定着している。反面、文章を読み取る力や図形的な思考力、関数の扱いについては、個人差がみられた。今後は、これらの力を一層伸ばすとともに、継続して基礎的・基本的な内容の確実な定着と数学的に考察し処理する力の育成を図ることが望まれる。

## 【理科】

各領域にわたり、基礎的・基本的な事項は概ね理解されており、特に単純な語句で解答する問題や平易な選択問題での正答率は89.5%に及んだ。しかしながら、中和と中性の問題など科学的な思考力を問う問題や、実験のねらいの理解を必要とする問題、グラフ作成や作図を要する問題では正答率が低く、17.1%～27.3%となった。このように、正答率が大きく二極化したことは、語句の理解や実験・観察に関する基礎的な理解は深まっているが、グラフ作成を含む数的処理、及び既習の知識を応用して深く考察する力の不足によるものと考えられる。今後、基礎的・基本的な事項の正確な理解に基づく科学的考察力を育成する学習が望まれる。

## 【英語】

これまでと比較して聞き取る英文の量、速さともやや程度の高いリスニング問題であったが、得点率は高く、英文を聞いてその内容や大切な部分を聞き取る力は定着している。英語で表現する力については十分とは言えない状況は続いているものの、誤答率、無答率ともやや減少し、中学校での指導の成果があがりつつあると考える。ある程度まとまりのある英文を読んでその概要を把握する力はあるが、内容を的確に読み取る力は十分とは言えず、今後一層の指導が望まれるところである。